

ENGINEER AWARD

- エンジニア アワード -

Engineer Award 報告書

Engineer Award 事務局

お問い合わせ先はコチラ ⇒ engineeraward@encafe.jp

公式サイトはコチラ ⇒ <http://www.engineeraward.jp>

■サマリー

株式会社エンカフェと株式会社 all engineer.jp は、様々な分野で活躍している技術者や理工系学生に対して、社外や学外でも活躍してスポットライトに当たる機会を提供する技術コンテスト『Engineer Award』を開催しました。本コンテストは、**新たな才能の発掘や、夢を発見するきっかけになればという強い想いで企画**しました。

初開催にも関わらず、多くのご協力・協賛企業様、特別審査員の皆様から多大なるご支援を賜り、また事務局運営にあたっては多くの献身的なスタッフの尽力によって、成功裏に終えることができました。心から感謝申し上げます。

力作揃いの全29作品もの応募をいただき、2008年8月2日(土)開催の授賞式および交流会では、エンジニアをはじめ理工系学生やメディア関係者100人弱が集まり、大盛況となりました。

授賞式後も、受賞者のインタビューや作品紹介記事が多くのメディアに掲載されており、**エンジニアたちにスポットライトを当てるといふ Engineer Award の理念の実現に向け、確実に一步を踏み出した**と実感しています。受賞者、応募者の方々には、ご参加を感謝すると共に、益々のご活躍を期待しております。

今回の実績と反省を活かし、「Engineer Award」の名にふさわしい、**エンジニアのための一大イベントを目指して**、今後とも尽力してまいります。どうぞご支援、ご協力のほど、宜しくお願いたします。そして、**第2回 Engineer Award をどうぞご期待ください。**

Engineer Award 事務局 代表

< Engineer Award 関連URL >

・ 作品紹介

<http://www.engineeraward.jp/award.html>

・ encafe 内参加者コミュニティ (会員登録要)

http://encafe.jp/sns/?m=pc&a=page_c_home&target_c_commu_id=145

・ encafe 内作品展示 (会員登録要)

http://encafe.jp/sns/?m=pc&a=page_c_home&target_c_commu_id=181

・ 授賞式ムービー

Encafe video (5min版) ⇒ <http://video.encafe.skyshop.jp/play.php?vid=98>

youtube (5min版) ⇒ <http://www.youtube.com/watch?v=FUpGYTbBQoA>

Encafe video (15min版) ⇒ <http://video.encafe.skyshop.jp/play.php?vid=83>

※ 公式サイト各種情報掲載は2009年1月1日以降に終了またはURLを変更させていただくことがございますのでご了承ください。

※ Encafe video は現在試験中のサービスであり、URLは変更になる場合があります。

《 Engineer Award 開催概要 》

■ 期間

エントリー期間 : 2008年5月19日(月)～2008年7月22日
授賞式 : 2008年8月2日(土)

■ 応募作品テーマ

テーマ ガジェット(小型機器、小規模アプリケーションの総称)

ハード部門:電子工作ガジェット

「トランジスタ技術(CQ出版社)」の付録またはOpenDMPPキットの利用が条件。

ソフト部門:OpenPNE小窓ガジェット

オープンソースSNS「OpenPNE」で利用可能なWebガジェット「小窓」の制作が条件。

■ 応募資格

本コンテストの趣旨に賛同する技術者や理工系学生の方

■ 応募作品の審査

審査方法 2部門×2クラスの4つのカテゴリで分かります。

2部門 :ハード部門、ソフト部門

2クラス:オープン(中級者向け-技術重視)、エンジョイ(初級者向け-プロセス重視)

審査基準 審査員が部門別・クラス別に、作品技術・制作プロセスを評価します。

作品技術の審査基準 : 技術力、独創性、完成度

制作プロセスの審査基準: チームワーク、アクティビティ、アトラクティビティ

《 主催・協賛・協力 》

主催:株式会社エンカフェ、株式会社all engineer.jp

共催:株式会社メイテック

特別協賛:映画「庭から昇ったロケット雲」(株式会社デスペラード)、株式会社ワークタンク

協賛 株式会社秋月電子通商、ウィッツェル株式会社

特別協力: CQ出版社、株式会社手嶋屋、ハフトテクノロジー株式会社、株式会社リンリンモバイル

協力:株式会社インフロー、EMS-JPグループ、株式会社マルツ電波、株式会社NTマイクロシステムズ

メディア協賛:株式会社キャリアデザインセンター、株式会社インフロー、株式会社翔泳社、

ゼネラルヘルスケア株式会社、九十九電機株式会社、ベンチャーナウ株式会社、株式会社千石電商、

電子工作の広場、アイティメディア株式会社、アイティメディア株式会社、株式会社若松通商

《 運営事務局 》

吉弘辰明(代表、株式会社エンカフェ 代表取締役)

堤教晃(副代表、株式会社all engineer.jp 代表取締役)

山下浩史、小島英生、山田裕一、松本祐輔ほか

特別スタッフ:長谷川羽衣子(司会)、風巻清香(バルーン制作、株式会社ユニセラー代表取締役)安東秀樹
(交流会シェフ、プライベートシェフアムール)

技術アドバイザー:別府政通(株式会社エンカフェ 取締役)、田端厚賢、荒木和範

《活動詳細》

■プロモーション

協賛企業様には、公式サイト (<http://www.engineeraward.jp/>) トップページでのバナー広告の掲載などを通じて、認知向上のご協力をさせていただきました。

今回のイベントのプロモーションについては、下記をご参照ください。

〈プロモーション活動一覧〉

WEBメディア掲載 電子メール：約 23 万通

掲載例

@IT 先週の人気記事 (87000 通)

@IT 自分戦略研究所 Weekly (80000 通)

P 板.com の会員 (14000 通)

@Type ウェブ会員 (2 万通?)

メイテック全社員 (8000 通×2 回)

all engineer.jp 会員 (2000 通)

encafe 会員 (2000 通×3 回)

国内主要 Web ガジェットコンテスト参加者 (約 500 通)

組み込みzine <http://www.shoeisha.co.jp/>

Venture Now <http://www.venturenow.jp/>

IT Used Book Store <http://www.it-usedbook.com/>

NTマイクロシステムズ <http://ntus.net/>

EMS-JP <http://www.ems-jp.net/>

映画「庭から昇ったロケット雲」公式サイト <http://www.rocket-gumo.jp/>

ワークタンク <http://www.worktank.co.jp/>

新聞・雑誌メディア掲載 約 55 万部

掲載例

日経産業新聞 (約 20 万部)

エンジニア Type (目次隣接 1P) (10 万部)

学生新聞 (15 万部) (費用は株式会社エンカフェが負担)

トランジスタ技術 11 月号 (5 万部)

Software design (予定) (3.5 万部)

チラシ設置とチラシ配り (秋葉原電子部品店舗および展示会) 約 6000 枚

チラシ配置：4000 枚、チラシ配布：2000 枚

ブログ、SNS※ 約 9 万ユーザー

OpenPNE.jp (7000 名)、Mixi (15 関連コミュニティ、30000 名)、カニチ (15000 名) @ele (1500 名)、電子工作の広場 (300 名)、encafe (2000 名)、電子工作関連ブログ：厳選 50 名、OpenPNE 公式ブログ (約 3 万 SNS 管理者)

※SNS および SNS 内コミュニティ管理人には事前承諾済み
リスティング広告

google adwords 170 万 PV 600 クリック

大学・専門学校の掲示板へのポスター等の掲載

東京大学、東京工業専門学校ほか

■ 作品制作

今回のエンジニアアワードの特長として、**SNS (encafe) 内にチーム別の専用コミュニティを作成して、制作プロセスを公開するというユニークな試み**を行いました。それによって、チーム外のエンジニアの知恵を借りながら、作品をブラッシュアップしたチームも多かったようです。また応募後に互いに作品をみながら検討をたたえあう模様もみられました。コンテストに参加していない一般のエンジニアからも注目されることとなりました。



エントリー 28 チームの専用コミュニティ一覧。SNS をフル活用。

作品への賞賛のコメントおよびアイデアを提案。やり取りが始まる。

ネットだけではなく、リアルの勉強オフ会を6、7月にかけて計7回開催して、作品制作の支援と参加者同士の交流の機会を設けました。ソフト部門は株式会社手嶋屋、ハード部門はハフトテクノロジー株式会社に各々協力をいただき、課題の基礎を学ぶとともに、アイデア交換会、実践トレーニングを行いました。ソフト部門では、連続で勉強会に参加したチームが作品をその場で仕上げて見事受賞するというチームもありました。秋葉原では、パーツ屋に買い物ツアーをするなど、バラエティに富んだ会となりました。



ソフト部門の勉強会に大勢の応募希望者が参加。



なんと勉強会で新作小窓を完成した優等生も現る。



ハード部門では、秋葉原パーツ購入ツアーも実施！

■審査会

7月27日に応募が締め切られ、計29作品を翌日から各審査員による審査が始まりました。1次審査（書類、電子データ）、ハード部門は2次審査（現物）を経て、8月2日午前の最終審査が行われました。豪華審査員8名が一同に会して、事前の集計結果から絞込まれた候補作品について、率直な意見交換がなされ、厳正な審査となりました。

<特別審査員>

今村 博宣 ハフトテクノロジー株式会社 代表取締役
生越 昌己 WASP 株式会社 代表取締役（初代Linux協会 会長）
貝畑 政徳 面白法人KAYAC 代表取締役
熊谷 秀幸 CQ出版株式会社 トランジスタ技術 編集長
手嶋 守 株式会社手嶋屋 代表取締役
野口 智樹 株式会社NTマイクロシステムズ 代表取締役
三宅 勇次 技術士 三宅技術士事務所
宮島 聡司 ウィツェル株式会社 取締役副社長

■授賞式

8月2日の授賞式当日は、作品の応募者や、その作品を一目見ようと集まった一般の参加者ら80名あまりが集まり、緊張感の漂う中、受賞作品の発表が行われました。

特別賞2作品、エンジョイ賞1作品と順番に発表が行われ、いよいよ最後の最優秀賞2作品の発表。より一層の緊張感が会場を包み込み、発表とともに、割れんばかりの拍手で会場が包まれました。



審査員勢ぞろいの最終審査会では時に厳しい意見も。



照明が落ち。オープニングへ。EA誕生の感動的瞬間！



審査員の入場を終え、最前列にずらりと。豪華面々。



特別賞が発表され、前へ。緊張と喜びが交錯！



最優秀賞のトロフィーの授与。最初の栄冠に輝く。



共催（株）メイテック取締役より閉会のお言葉。

また、発表ののちに、審査員の方々から、様々なコメントをいただきました。

「審査する側、使う人の立場からすると、箱に入っている作品がもう少しあってよかった。」

「新しい発想の作品が多く非常に刺激になった。アイデアを思いついたらすぐ作って公開するといい。使い方は別の人が考えてくれる。」

「短期間がこんなに作品が集まるんだと驚いた」

審査員のコメント詳細（動画）はコチラ（encafe への登録要）。

⇒ http://encafe.jp/sns/?m=pc&a=page_c_topic_detail&target_c_commu_topic_id=1240

<受賞作品の紹介>

◇最優秀賞 ハード部門 賞金 10 万円

日々是自作チーム「Sparse communication ambient device」

◇最優秀賞 ソフト部門 賞金 10 万円

NV チーム「ひみつメッセージ小窓」

◇エンジョイ賞 ソフト部門 賞金 5 万円

リリーサークルチーム「veoh の小窓」

◇特別賞 映画「庭から昇ったロケット雲」賞 賞金 3 万円＋副賞

ごんべえチーム「ロケット雲プロモーション&レビュー小窓」

◇特別賞 ワークタンク賞 賞金 3 万円＋副賞

NV チーム「ひみつメッセージ小窓」

◇特別賞 OpenDMPP チャレンジ賞 OpenDMPP キット無償提供

しろくまチーム「OpenDMPP ガジェット」

◇審査員特別賞 敢闘賞 賞品（提供：面白法人 KAYAC）

Chixi.jp 技術開発部チーム「最新コミュニティ 10」

◇審査員特別賞 ナイスプロダクト賞 賞品（提供：NT マイクロシステムズ）

クリエイトシステムチーム「D3timer」

◇審査員特別賞 手嶋屋賞 賞品（提供：株式会社手嶋屋）

どりくら TV チーム「どりくら TV CMD (CMD キャスト)」

受賞作品の詳細はコチラ ⇒ <http://www.engineeraward.jp/award.html>

最優秀賞 ソフト部門 NV チームからのコメント

[コメント] 私自身も特に若いころ自信を持てずに来ましたが、**今回チームのメンバーは若手中心で、彼らはアイデアを形にすること、それが多くの方に受け入れられることもあるんだ、ということを経験できた**と思います。特に若い方にこういう機会にもっと触れてほしいなと思います。

詳細はコチラ ⇒ <http://www.engineeraward.jp/blog/?p=63>

最優秀賞 ハード部門 日々是自作チームからのコメント

[コメント] 使える道具立てが決まっていたので、最適なマイコンの選定から始める普段のスタイルが取れなかったところが大変でした。/**今回の受賞がなんらかの転機になると良いかなあ**とは思っています。

詳細はコチラ ⇒ <http://www.engineeraward.jp/blog/?p=62>

■交流会

授賞式終了後、応募者や一般参加者だけでなく、**審査員や関係者の方々も交えての大交流会**が行われました。会場の一角では、応募作品の展示も行っており、応募者の作品について詳しく話を聞いてみたり、日々取り組んでいる仕事の内容の話に花が咲いたり、終始、とても活気のある場となりました。

また、交流会の最中には、交流を促進するための「チーム対抗クイズ大会」なども行われ、**参加者全員が互いに交流できるような仕掛けも用意**していました。交流会の後半では、受賞者も含め、応募者に対して、ビデオカメラを片手にインタビュー取材が行われるという場面もあり、応募者は、少し緊張した面持ちで取材に応じていました。



景色は一変。ゲストを交えた大交流会の乾杯。



プライベートシェフによる本格フレンチデザート。



芸人スタッフ(笑)。パルーンアーティストも活躍。



ハード部門の作品を前に、参加者に囲まれる受賞者。



歓談タイムに受賞者、応募者への単独インタビュー。



(番外) スタッフ事前打ち合わせ。ドリームチーム！

◇参加者の声 (一部抜粋)

- ・ **審査員の方々の意見は大変参考になった。次回またチャンスがあれば参加したい。**
- ・ 授賞式ではノミネート作品や受賞作品のもう少し詳しい説明が欲しい。
- ・ Engineer Award の志はとてもいいのでぜひこれからも続けてもらいたいです。
- ・ テーマにもよりますが、また次回参加させてください。

特に応募者の方へのインタビューでは、次回も参加したいとの声が大変多く聞かれました。

■協賛・協力企業および収支報告

(単位：円)

収入	摘要	金額	詳細
	協賛金	1,400,000	共催運営支援(メイテック)、特別協賛2団体(テスラ、プレステージ)、協賛2団体(秋月通商、ウィツェル)、
	参加費	15,000	
	総計	1,415,000	
支出	摘要	金額	詳細
	スタッフ活動費	574,275	プロモーション活動、授賞式企画・アテンド、会計等、昼食代、Tシャツ代
	プロモーション費	75,013	ビラ印刷、コピー代、google adwords、座談会費用
	授賞式費	114,550	荷物搬送費、審査員謝礼、トロフィー代、特典発送費、司会
	賞金	310,000	ソフト部門最優秀賞、ハード部門最優秀賞、ソフト部門エンジョイ賞、特別賞ワークタンク賞、特別賞庭から昇ったロケット雲賞
	交流会費	136,004	パーティ料理代、切手、備品費、応募者プレゼント、特別スタッフ
	Web管理費	150,000	web制作・管理費、movie制作費
	雑費	21,000	会場クリーニング代等
	総計	1,380,842	
	収支	34,158	

剰余金：¥34,158-

※一部、未確定分を含みます。

※剰余金は、次回 Engineer Award 繰越金とさせていただきます。

ご協力・ご協賛いただいた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

■今後の課題と対策

(1) 応募作品を軸にしたさらなる交流促進

応募作品・受賞作品をもっとじっくりと見てみたいという要望が、当日の参加者から上がってきたことを受け、**次回開催の際は、制作者が作品をPRできる時間と場所を、十分に確保すること**を考えています。

(2) プロセスの支援体制の充実

今回は、過去に作品を制作した経験があり、制作に慣れている参加者が多かったため、制作中におけるサポートが、それほど必要ありませんでした。しかしながら、今後は、事務局スタッフや技術サポートのエンジニアによる支援体制を充実させ、初心者でも参加できるようにするとともに、作品のクオリティ向上のため、積極的な支援をしていくことを考えています。

それと同時に、今回は、一人で単独でエントリーして制作をする参加者が多かったため、制作前のエントリー時点で、**共同制作メンバーやアドバイザーを募るためのチームビルディング支援も、積極的に行う**ことを検討しています。

(3) 対象を拡張したり、まったく別の分野といった、新しいテーマでの開催

今回協賛いただいた企業様や、一般参加者としてご参加いただいた企業関係者の方々から、今回のイベントの成功を受けて、次回は、別のテーマでも開催をぜひ検討して欲しいという声もいただきました。今回取り上げた、OpenPNEの小窓ガジェットやトランジスタ技術の付録を使った電子工作以外のテーマも、次回開催時に検討いたします。

■ 次回への展望

今後、SNSを活用したネットコラボレーション、従来の技術コンテストの常識にとらわれない企画満載という特長というよさを活かしつつ、Engineer Awardという名前にふさわしいコンテストに進化発展させてまいります。**初心者からトップレベルのエンジニアまで参加でき、より幅広い分野のエンジニアを対象に**、より自由度の高いテーマを設定して、第2回目の準備を進めてまいります。2009年明けにはテーマを固めて、春先のサイトオープンおよびエントリー開始を目指してまいります。どうぞ一段とパワーアップしたEngineer Awardをどうぞご期待ください。